

校長室から (NO. 21)

「赤いトマト」

猛暑が続いています。今日はとうとう、熱中症の危険度が高く、プールを閉鎖してしまいました。がっかりしている子供もいることでしょう。(ごめんね。)

歓声が聞こえてこないなあ・・・と、プールに目をやると、子供たちがいないせいか、今日は菜園が目に入りました。トマトやピーマン等、次々となります。夏休み前は、低学年の子供たちが家に持って帰っていたはずです。

そうそう、こんな出来事を思い出しました。

7月上旬、野菜が実り始めた頃、廊下で出会った男の子が、「校長先生！ぼくのトマトだよ」とポケットから一つ見せてくれました。「わあー真っ赤になったね。よかったね。」と、一緒に喜ぶと、「あげるよ！」と言います。

私は、てっきり1個しかないと思い込み、「お家の人に持って帰ったら喜ばれるよ」と言うと、もう一個のポケットから、二粒のミニトマトを出して見せてくれました。

お父さんとお母さんの分はちゃんと確保した後の私の分。もちろん、それでこそよいのです。自分の分をわけてくれたのかもしれない。私は、「ありがとう」と大喜びでもらうことにしました。そのうれしそうな様子を見ていたのか、横にいた女の子も、「私のもあげる」と手渡してくれました。



ようやく実がなって間もない頃の野菜です。子供にとって、貴重な存在であったにちがいない。つやつや輝くかわいいミニトマト、まるで二人の笑顔のようです。思わず写真におさめたのでした。